レッスン：９“M”

テーマ：ロゴスおよび聖霊の降下

MAC9.DOCM/EN/

私の兄弟・姉妹達、

スピリット・光・火の子供達へ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　このレッスンでは、創造界へのロゴスと聖霊の下降、およびそれと創造のセル(Cell、部屋・小室などの意)との関係のしかたについて扱います。創造のセルを私達は生命の木と呼んでいます。創造界には二つの現れが下降しており、それはロゴス的現れと聖霊的現れです。それら二つの現れは絶対存在の神の黙想の結果であり、それらは神のアウタルキー（＊自己充足）の中で現れています。

　　ロゴス的現れは人間のイデアを通じて表現され、その結果人間は創造の諸世界において魂のセルフ・エピグノーシス、および現在のパーソナリティーとして現れています。このイデアを通じて、聖なるモナドの霊的存在(Holy Monad Spirit Being)からの微細なスパークだけが創造界へと下降し、それ以外は絶対存在のアウタルキーの中に留まっています。実際、創造界の唯一の目的は人間のイデアへの奉仕です。

　　聖霊的現れはアークエンジェルのオーダー（＊グループ、組織）およびシステムとして、アークエンジェルのイデアを通じて表現されます。聖霊的現れの唯一の目的は創造それ自体に奉仕することですが、それに対し人間のイデアには特別の目的があり、それについては後ほど触れます。アークエンジェルはいわゆるアークエンジェル的意識を表現し、実際それは意識の、創造界への聖霊的下降なのです。聖霊的下降においては、セルフ・エピグノーシスよりも意識の方が優勢ですが、ロゴス的下降ではその反対です。人間のイデアを通じたロゴス的現れの特徴は、セルフ・エピグノーシスの質です。その質によって、モナドであるセルフ(Monad Self)の自己実現という能力がその現れに与えられます。セルフ・エピグノーシスは現在のパーソナリティーに、Lifeの現象の諸世界内での経験を通じて個別性を獲得する可能性を与えます。

　　Lifeの現象としての下降の最初の段階においては、人間は自分自身を無意識的に表現し、多くの経験を通じて初めて自分自身および周囲に対する気づきを徐々に獲得ようになります。その結果、人間は次第に意識的に生きられるようになり、超意識的にセルフ・エピグノーシスを表現することが人間の役割となります。勿論、超意識を表現するような段階に到達するためには、人間は非常に真剣であらねばならず、忍耐と誠実性が必要です。なぜなら、その役割とは神の本質、絶対存在の特徴と同じである私達の中の神の本質、インナーセルフの特徴を表現することだからです。

　　セルフ・エピゴノーシスのロゴス的現れ及び意識の聖霊的現れを持つゆえに、私達は汎宇宙的キリスト・ロゴス、そして聖霊の現れと顕現、つまりマインドの使用を通じて創造の諸世界すべてを築く絶対存在の両手を有しているのです。

　　それでは、生命の木、つまり創造のセルの上で、過去において私達が述べ、またこれからも触れることになる（創造の）様々な段階を追って、見てみましょう。

\*Page 2

生命の木、つまり創造のセルは最大の中にも最小の中にもあります。それは物質内の一つの原子であり、太陽系全体であり、銀河系全体でもあるのです。上の如く下もしかり。

　表における文字と数は、説明する上での便宜上のものにすぎないことに注意してください。表は三つの柱に分けられます。Ｂの柱は小宇宙的には人間の右側に対応し、大宇宙的には人間のイデアを通じての下降を現します。Ｃの柱は小宇宙的に人間の左側に対応し、大宇宙的には聖霊の下降を現します。中央のAの柱は小宇宙的には人間の背骨に対応し、大宇宙的には汎宇宙的キリストロゴスによる道・真理・Lifeとしての創造界への下降を現します。

　　中央のA10は小宇宙的に地球に対応します。A9は小宇宙的には太陽神経叢に、中宇宙的（メゾコスモス）には月に対応します。それは

頂点が上を向いている五芒星によって象徴され、五つの超感覚を表現する人間を意味します。

五感は下向きの五芒星の頂点によって示されています。

A6は小宇宙的に心臓に対応し、中宇宙的には太陽に対応します。それは周辺に72の光線を有し、二つの正三角形によって形成される六芒星が中にある太陽を象徴しています。一つの三角形は頂点が下向きで、他方の三角形の頂点は上向きでその底辺に十字があります。下向きの三角形は汎宇宙的キリストロゴスの創造の諸世界への下降を意味し、底辺に十字のある上向きの三角形は人間の上昇を意味します。その上昇とは、十字が意味する自然の四つのエレメントを人間がマスターして支配できるようになり、三位一体における神の特質を現している状態です。このポイントにおいて、人間はキリストロゴスを表現しています。二つの三角形の中心点（センター）は一緒です。A1において三角形は二つに分割され、小宇宙的には右脳および左脳としての頭の中央を意味します。

　　B２とC３のポジションは小宇宙的に、それぞれ右肩および左肩の少し上に対応します。B４とC５は小宇宙的にそれぞれ右肺と左肺に対応します。B７は小宇宙的に肝臓に、C８は脾臓に対応します。B２のポイントは大宇宙的に、人間のイデアを通じて表現するために神の黙想に入ったHoly Monad Spirit Beingを意味します。Holy Monad Spirit Beingは円および中心の点によって示されています。B４は大宇宙的には創造界と魂のセルフ・エピゴノーシスの現れを意味します。これは正三角形とその中の十字によって示されています。三角形は、絶対存在と同じ特質を有する最内奥のセルフのriadic(?)な本質を現しています。十字はバランスの世界へ下降した人間、および自然の四つのエレメントを意味します。質的には、魂のセルフ・エピグノーシスは絶対存在と全く同じです。

　　B４からB７は大宇宙的には魂のセルフ・エピグノーシスが現れている存在の諸世界であり、これらの世界は四つのヘブンに分けられます。生それ自体、存在の世界の四つのヘブンです。これらは元型・イデア・法則・原因の世界です。それらはノエティックの世界です。

\*page3

B7において大宇宙的に、魂のセルフ・エピグノーシスは、永遠のパーソナリティーである魂のセルフ・エピグノーシスと呼ばれる別の色を帯びます。この中心は水平の線の上にある円の中心点によって示されています。円と点は生のスパークを意味し、線はバランスを意味します。このポジションから、永遠のパーソナリティーはバランスの世界、つまり現在のパーソナリティーの世界に永遠のアトムを投射する能力を表現することができます。

　　B7からから下へA10までは、大宇宙的には永遠のアトムが実存の世界、つまり対極と二元性の世界に入ることを意味します。これらはLifeの現象としての現在のパーソナリティーの諸世界です。そこでは無知の世界に入り、もはやその本質である三位一体を表現しません。A10のポイントは大宇宙的には、Lifeが実存の世界でLifeの現象として表現されており、現れの最も低い地点です。それは中宇宙的には、惑星地球に対応します。小宇宙的には、それは仙骨と生殖器官に対応し、聖霊の指揮下にあります。

　　このセンターは自然の四つのエレメントを意味する四面体ピラミッドによって象徴されています。右側（＊A10に立っているピラミッドの右側の面、図に向かって左側）は火のエレメントで、赤い色で代表されており、ミカエルが監督しています。左側はエーテルあるいは空気のエレメントで、超紫色(Ultra-Violet colour)によって代表されており、ラファエルの監督下にあります。

　　水のエレメントはホワイト・ブルーの色によって代表され、ガブリエルによって監督され、9Aの方に面しています（＊ピラミッドの、9A側の面）。ピラミッドの四つ目の面は白色によって代表され、ウリエルがコーディネーターであり、それは現在のパーソナリティーのためです。

四番目のエレメントはピラミッドの底に対応し、土の色によって代表され、サミュエルがこのエレメントを管理しています。

　　左側のＣの柱は大宇宙的には聖霊の下降を意味します。Ｃ３は神の黙想に入ったHoly Monad Spirit Beingで、奉仕という唯一の目的のために聖霊的表現を通じて現れようとしています。

　　Ｃ５は大宇宙的には、生の息吹きの結果としての動物界と植物界の創造を意味します。このセンターは動物界、植物界の様々な生物の象徴によって描かれます。

　　C8には大宇宙的には、実存の世界で奉仕しようとするアークエンジェル達がいて、彼らは７つの異なったオーダー（グループ）に属します。このセンターは横の線と７つの炎によって描かれます。

　　このようにして、

創造界には二つの現れがあります。

セルフ・エピグノーシスを創造するロゴスの現れ、

そして意識を創造する聖霊の現れです。

　　神の黙想のこの動きは時間・空間の意味を越えています。それは一瞬ですが、その一瞬は無知の中に取り込まれている私達にとっては何百万年にも相当するかもしれません。なぜなら、意識としての私達は非常にゆっくりと動き、それを私達は余りにも長いと考えるからです。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。